

# 農林水産大臣賞受賞

ささえあいから花開く日向

受賞者 <sup>にっこう</sup>日向コミュニティ <sup>しんこうかい</sup>振興会  
(山形県酒田市 <sup>さかたし</sup>)

## ■ 地域の沿革と概要

山形県の北西部に位置する酒田市は、北に鳥海山、南に月山を望む、日本有数の穀倉地帯であり、気候は日本海側気候に属しており、水稻を中心に、野菜、畜産、果実など複合的な農業が営まれている。

平成 17 年に旧酒田市、八幡町、松山町、平田町の 1 市 3 町が合併して総面積が 603 k<sup>2</sup> となり、県内の市町村で 3 番目に大きい市となった。酒田沖の北西約 39 k<sup>2</sup> mにある飛島<sup>とびしま</sup>は県唯一の離島であり、鳥海山とともに鳥海国定公園に指定されている。

酒田市の東北部に位置する日向地区は「出羽富士」と称される鳥海山の麓にあり、地区内を流れる日向川に鳥海山からの水が流れ込むなど、豊富で良質な水に恵まれている。高さ 63m で県内随一と名高い「玉簾<sup>たますだれ</sup>の滝」をはじめとして、「鶴間池」「数河<sup>すごう</sup>の池」「不動の滝」など、水に関する観光資源が豊富な地区である。

また、積雪が多い地域でもあり、日向地区が位置する旧八幡町は特別豪雪地帯に指定されている。

第 1 図 位置図



写真 1 日向川

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

高齢化・過疎化が進む日向地区において、「日向コミュニティ振興会」(以

下「振興会」とする。)が中心となって「地域が一体となり、支え合い、助け合い、誰もが安心して暮らし続けることができる日向地区」を目指し、ワークショップ形式で話し合いを重ね、地域の課題解決に取り組んでいる。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

#### ア むらづくりを推進するに至った動機

日向地区は、過疎化・人口減少が進行しており、高齢化率は令和2年3月末時点で50%を超えている。また、少子化に伴い平成21年3月に日向小学校が閉校することになり、住民の間には地域が廃れてしまうのではとの危機感が生まれていた。

市の施策により公民館を廃止しコミュニティセンター(以下「コミセン」とする。)へと移行する年と小学校の閉校が重なったことで、旧小学校をコミセンとして再活用することとなった。

生涯学習の拠点であった公民館から、地域づくりの活動拠点となるコミュニティ振興会組織へと移行したため、「地域づくりとは何だろう?」という模索から始まった。



写真2 ワークショップ

#### イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

地区における会議は、参加者が自由に意見を出し合う「ワークショップ形式」を基本として10年になる。コミセン移行後の平成21年からは、振興会が中心となり、話し合いを進めてきた。

一方、活動の輪を広げたいとの思いがあった地域団体(鳥海日向街道もだしの会)は、山形県の「元気な地域づくり支援プロジェクト」事業を活用して活性化の方法を模索していた。

その結果、地区内での情報共有や若者・女性の参画を促し、ネットワークづくりに向けた意見交換の場を設定するため、振興会を中心とした受け入れ体制をつくり、地域団体が企画運営に参画する形で、地域コミュニティの再構築に向けた活動が始まった。

市役所・市社会福祉協議会・市包括支援センター・大学生など、幅広い分野の人が参加するワークショップでは、様々な視点や角度からの意見が集まり活動に反映することができるため、回数を重ねるうちに「できることからみんなで解決していこう」という住民主体の活動が活発になっていった。

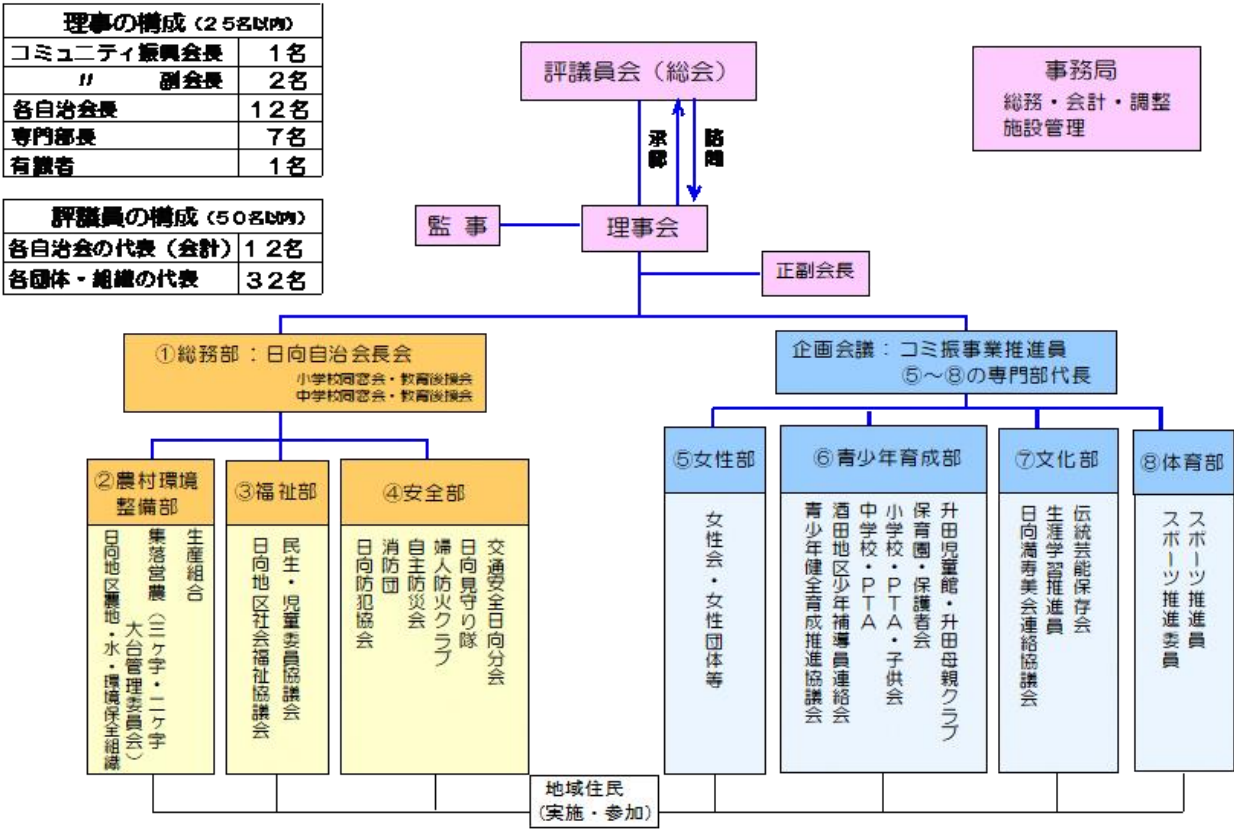
令和3年度には地域づくりビジョンの策定に向けたワークショップを開催し、出された意見を「場・主体(人)・持続条件づくり」の3つの

柱に分類して部門ごとに話し合いを重ね、「いろんな世代がみんなで支え合える地域」にするためのビジョンを策定した。令和4年には住民へビジョンを報告し、活動を進めている。

(2) むらづくりの推進体制

活動主体である振興会は、12の自治会から組織される地域活動（運営）組織で、地元から職員を雇用してコミセンを運営している。むらづくりを行うコミュニティ組織は、自治会主体と生涯学習事業主体の計8部から構成されている。地区における農業面の取組は「農村環境整備部」が主体となっており、振興会は各組織を繋げるハブの役割を担っている。

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

振興会は、住民の「居場所づくり」に取り組み、地域の課題を地域住民自ら解決し、コミュニティ力を高めることで、農村地域の持続性を高める方向で成果を上げている。

住民主体のワークショップで出された意見を元にこれまで孟宗竹等の農林産物の直売、除雪ボランティア等に取り組み、住民の「居場所づくり」に取り組んでおり、本会の取組がきっかけとなり、地域の農業法人と企業、学生との交流が広がっている。

コミセン内のカフェ「日向里<sup>にっこり</sup>かふえ」の開設にあたっては企業が協力している。「住民主体の地域づくり」を進めていた日向地区の活動が「地域社会の課題に役立つ」という企業の考えに合致したことから、空間デザインは企業が、運営は住民が行う「日向里かふえ」の開設に向けた活動が始まった。住民・大学・地元企業と協働で、旧校舎で使用していた机や椅子をアップサイクルし、DIYリノベーションを経て開設に至っている。



写真3 企業の移動販売の様子

## 2. 農業生産面における特徴

### (1) 日向里かふえ・産直コーナー

日向里かふえでは、地域農産物を活用したメニューを提供し、地域にあるものを活かしている。

カフェでは日替わり店長方式を採用し、地域のお母さん達や、日向地区の飲食店主・農家・産直等で組織する「鳥海日向街道もだしの会」会員のそば店やラーメン店、学生が子供の遊び場をつくる「にっこりランド」等で構成されており、地元産の食材を活用したランチ等が提供されている。

コミセン内にある産直・雑貨コーナーでは、地域住民が生産した孟宗竹等の農林産物や加工品・住民の手作り作品の販売などを行っている。



写真4 日向里かふえスタッフ

### (2) 研究会・団体へ橋渡し

振興会組織は8つの部会から構成されており、その中の「農村環境整備部」が農業面の活動を実施している。個々の団体で活動を実施している状況の中、振興会はそれらの組織や人を繋ぐハブの役割を担っている。例えば、地域の農業法人から土づくり指導を受けている移住者に対し、「からどり部会」（地域伝統野菜の研究会）への入部案内を行うなど、振興会は地区内の各団体や人を繋ぐ役割を果たしている。また、令和4年には、「お米づくりのお手伝いワークショップ」を開催し、農作業を通じて「中山間地域における農業」への理解を広げる場の取組をしている。



写真5 からどり部会への入部案内



写真6 お米づくりお手伝いWS

### (3) 地域の子どもの農業体験の支援、学生との交流

#### ア 地域の子どもへの農業体験の支援

防災キャンプの開催時には、地元で採れた食材を大学生と子ども達が一軒一軒いただきに回り（御礼に肩たたき）、集まった野菜で夕食や朝食を新聞紙で作った食器で食べる体験をしている。他にも枝豆作り、ワラビ採り、在来野菜の升田カブのタネ蒔き、干し柿づくり、味噌づくりなど体験をとおして、地域の子どもを地域で育てる活動を実施している。

#### イ 学生との交流

学生の受け入れを積極的に行っており、学生の活動団体「Praxis」は地域から借りた畑で育てた野菜をランチメニューで提供しており、大学卒業後に移住した若者は古民家の荒れた畑を再生する取組を始めている。

日向地区と関わる大学生らは、「地域の仕事の担い手不足問題を地域への移住・企業によって解決する仕組み」を検討しており、担い手不足の解消に向け、様々な団体が連携した受入れ体制の構築に取り組んでいる。

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### (1) 除雪ボランティア

#### ア 除雪ボランティア

積雪の多い日向地区では、降雪に加えて屋根からの落雪が家屋の窓や戸口を塞いで日光が遮られ、心身共に厳しい環境で冬期間を過ごしている。過疎化と高齢化の進行に伴い、地域住民だけでは十分な除雪作業をすることが難しくなっている状況を受け、平成24年度に除雪ボランティアが始まった。この活動は、自宅の除雪が困難な高齢者世帯等の住居に訪問して住宅まわりの除雪を行うもので、毎回地区内外から70名程度が参加しており、協力関係が構築されている。



写真7 除雪ボランティア

### ① 鶴岡市三瀬地区との協力

平成 27 年に国土交通省の調査で出会い、平成 28 年度より、お互いの地域で人手が足りていない作業を地域間交流により協力し合って解消する「労力交換」を実施している。この活動により地区間交流が生まれ、除雪サポートなどの協力体制（労力交換の仕組み）が出来上がった。

平成 29 年には、「さんぜスノースーパー（三瀬地区除雪ボランティアチーム）」が日向ささえあい除雪ボランティアへ参加し、日向地区の住民が三瀬地区の空き家清掃や花壇整備に参加する労力交換を実施した。

### ② にこにこ日向応援隊

日向地区に興味と愛情を抱き、魅力や情報を積極的に発信して応援する人達の集まりで、日向ファンとして活動できる人であれば誰でも登録可能である。「雪かき道場」参加者に始まり、全国に 24 名の隊員がいる（令和 4 年 2 月現在）。

## イ 地域支え合い防災マップの作成

災害の発生に備えて地域住民が助け合う『共助』の力を発揮するため、東北公益文科大学の協力を得て「地域支え合い防災マップ」を作成した。今後は、定期的にマップを更新しながら、高齢者世帯の見守りや避難訓練等に役立てていく。マップづくりは第一歩にすぎないが、みんなで集まり話し合うことで、地域を知るための可視化に繋がっている。

## （２）コミュニティ活動の強化、都市住民との交流

### ア ふれあい給食活動

年 6 回、地域のお母さん方から協力いただき、民生委員が高齢者世帯へ弁当の配食を行っている。この活動は、高齢者への声掛け・見守り活動も兼ねており、高齢者の日常生活を支える仕組みとなっている。

### イ <sup>ひなた</sup>日向ぼっこスクール

休日や学校の振替休業日などに、地域の子どもたちの居場所づくりとして、地域団体と合同で枝豆の苗植えや在来野菜の升田カブのタネ蒔き、ワラビ採り、干し柿づくりを行う。この活動により、子どもたちと高齢者の交流が生まれている。

### ウ 日向地区秋祭り

日向小学校といえば「集団縄跳び・文集・歌」と言われるほど力を入れていた学習発表会やなわとび、伝承が難しくなるであろう「杵つき餅」の伝統を残していきたいとの意見が多く、閉校前に何度も検討を重ねた。

小学校が無くなっても、子どもからお年寄りまで気軽に集まっておしゃべりができる場、厳しい冬を乗り切るための秋の収穫を祝う場になってほしいとの思いから、『日向地区秋祭り』と改名して次世代に伝えていくこととなった。

秋祭りは人々の交流を生む大きなイベントであり、地域内外の幅広い世代の住民が集い、見て、話し、知り、笑うことで地域内の関わりが増える機会となっている。